

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 2 区分
 【発行日】平成 17 年 8 月 4 日 (2005.8.4)

【公開番号】特開 2004-153244 (P2004-153244A)
 【公開日】平成 16 年 5 月 27 日 (2004.5.27)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-020
 【出願番号】特願 2003-304254 (P2003-304254)
 【国際特許分類第 7 版】

H 0 1 F 1/34

H 0 1 F 17/06

【F I】

H 0 1 F 1/34 A

H 0 1 F 1/34 B

H 0 1 F 17/06 F

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 3 月 4 日 (2005.3.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

同軸ケーブルのツリー状分配網（例えば図 1）やスター状分配網を利用して多チャンネルのテレビ放送を提供する C A T V システムが良く知られている。近年、この C A T V システムをインターネットなどの高速で大容量の情報を伝送するサービスにも利用することが行われている。またデジタル放送に伴う加入者端末からのセンター局へのデータ通信も行われるようになってきた。

このような C A T V システムでは、センター局（ヘッドエンド）から C A T V システム加入者端末の間に、幹線同軸ケーブルや光ファイバーケーブルなどの伝送路が敷設され、この伝送路には双方向の C A T V 信号を増幅する双方向増幅器、各端末に C A T V 信号を分配する分配器や分岐器などの C A T V 用機器が設置されている。

図 2 は、C A T V システムにおける C A T V 用機器の利用の一例を示すブロック図である。

図 2 において、1 5（1 5 a ～ 1 5 d）は双方向増幅器であり、その内 1 5 a ～ 1 5 c は幹線に設けられたものである。保安器 1 8 の下り側の支線は各加入者宅に引き込まれ、双方向増幅器 1 5 d、チョークコイルなどの雑音除去装置 1 9、分波器 2 0 を介してコンピュータ 1 6 やテレビ受像機 1 4 と接続される。一方保安器 1 8 の上り側は、分配器 1 3、分岐器 1 2、前記双方向増幅器 1 5 a ～ 1 5 c を介して、ヘッドエンド 1 0 に接続される。なお、ここではコンピュータ 1 6 に接続する R F モデムやテレビ受像機 1 4 に接続するホームターミナルなどは図示していない。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 5】

【表 2】

No.	外径 (mm)	高さ (mm)	内径 (mm)	機械的 共振周波数 f_o (kHz)	インピーダンスの歪み 発生周波数 (kHz)
A1	3.0	3.0	1.0	916	793
A2	3.5	3.0	1.0	814	772
A3	4.0	3.0	1.0	733	706
A4	3.5	1.5	1.0	814	864
A5	3.5	3.5	1.0	814	724
A6	3.5	4.0	1.0	814	628
A7	3.5	4.5	1.0	814	598

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0036】

フェライト磁心の外径を大きくすると、それに伴ってインピーダンスの歪み発生周波数が低くなり、機械的共振周波数 f_o の計算結果と良く一致する。なお機械的共振周波数 f_o は磁心の厚みについて考慮されていないが、フェライト磁心の厚みを厚くするとインピーダンスの歪み発生周波数は低くなることが判った。このような検討の結果から、インピーダンス歪がフェライト磁心の磁歪振動現象に起因することを確認した。